

**製品名: トロポニン T-C ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19307**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	35kDa

**抗原情報**

遺伝子名	TNNT2
別名	TNNT2; Troponin T, cardiac muscle; TnTc; Cardiac muscle troponin T; cTnT
遺伝子 ID	7139.0
SwissProt ID	P45379
免疫原	抗血清はヒト TNNT2 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 131-180

**背景**

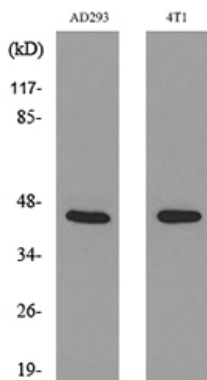
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、トロポニン複合体のトロポミオシン結合サブユニットであり、横紋筋の細いフィラ

メント上に位置し、細胞内カルシウムイオン濃度の変化に応じて筋収縮を制御します。この遺伝子の変異は、家族性肥大型心筋症および拡張型心筋症と関連付けられています。この遺伝子の転写産物は選択的スプライシングを受け、多くの組織特異的なアイソフォームが生じますが、これらの変異体の一部については、完全長が未だ解明されていません。[RefSeq 提供、2008年7月]、代替製品: 追加のアイソフォームが存在するようです。一部のアイソフォームについては、実験的確認が不十分な場合があります。、疾患: TNNT2 の欠陥は、拡張型心筋症 1D (CMD1D) [MIM:601494]の原因です。拡張型心筋症は、心室拡張と収縮機能障害を特徴とする疾患であり、うっ血性心不全および不整脈を引き起こします。患者は早期死亡のリスクがあります。、疾患: TNNT2 遺伝子の欠陥は、家族性肥大型心筋症 2 型 (CMH2) [MIM:115195]の原因です。家族性肥大型心筋症は、心室肥大を特徴とする遺伝性心疾患であり、通常は非対称性で、しばしば心室中隔が侵されます。症状には、呼吸困難、失神、虚脱、動悸、胸痛などがあります。これらの症状は運動によって容易に誘発される可能性があります。この疾患は、良性から悪性まで、家族内および家族間で多様性があり、心不全および突然心臓死のリスクが高い。、疾患: TNNT2 の欠陥は、家族性拘束型 3 型心筋症 (RCM3) [MIM:612422]の原因である。拘束型心筋症は、心室壁の厚さおよび収縮機能は正常またはほぼ正常であるにもかかわらず、心室充満障害と拡張期容積の減少を特徴とする心疾患である。機能: トロポニン T は、横紋筋アクチンミオシン ATPase 活性にカルシウム感受性を付与する細いフィラメント調節複合体であるトロポニンのトロポミオシン結合サブユニットである。、類似性: トロポニン T ファミリーに属する。、組織特異性: 心臓。胎児心臓では心房よりも心室で高い発現が見られ、成人心臓では心房よりも心室で高い発現が見られます。正常な成人心臓ではアイソフォーム 6 が優勢です。アイソフォーム 1、7、8 は胎児心臓で発現しています。アイソフォーム 7 は、心不全を呈する成人心臓でも発現しています。

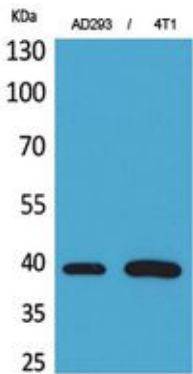
## 研究分野

心筋収縮;肥大型心筋症 (HCM);拡張型心筋症;

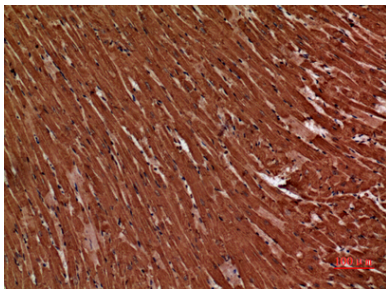
## 画像データ



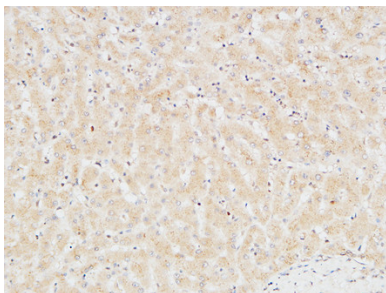
TNNT2 抗体を使用した AD293、4T1 細胞の溶解液のウエスタン プロット分析。



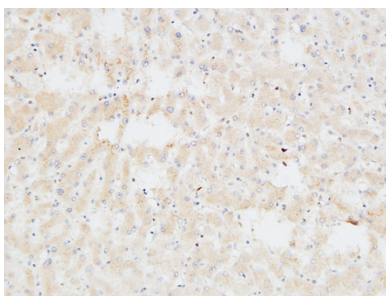
トロポニン T-C ポリクローナル抗体を用いた AD293、4T1 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



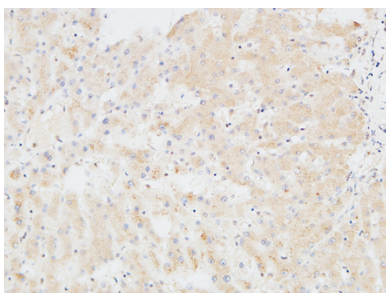
パラフィン包埋マウス心臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



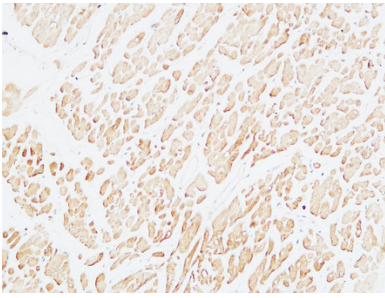
パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



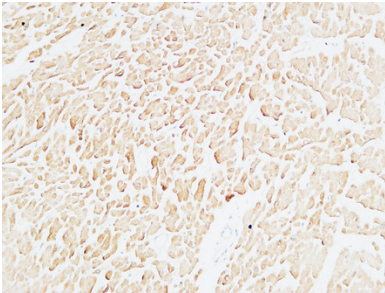
パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



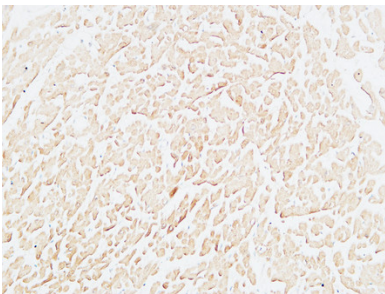
パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト心臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト心臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト心臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。